

高速交通路の開通が観光来客数に及ぼした影響 (1980年代以降)

九州東海大学 工学研究科 学生会員 矢野 雄大
九州東海大学 工学研究科 正会員 渡辺千賀恵

1. 研究の目的と方法

九州新幹線鹿児島ルートが2011年春に全線開通すれば、熊本県内の観光地などへの来客が増えるであろうと期待されている。しかし、開通はプラスに作用するとは限らない。筆者らは、山陽新幹線・中国自動車道が来客数に及ぼした影響を分析して、影響を5タイプ(後述)に分類した¹⁾。この分類は1970年代の古い事例に基づくので、その後も同様の現象が起きているかどうか確認しておく必要がある。本稿では、1980年代以降の開通事例に基づき、5分類の妥当性を確認した結果の一部を報告する。

分析方法としては、全国の典型観光地について来客数の経年推移グラフを描き、路線の開通年来客数が大きく変動したケースを選んで考察した。本稿で述べる観光地と高速道路の位置を図-1に示した。来客数データには各市町村が毎年調べている「入込み客数」統計を用いた。この統計は市町村によって調査方法が異なるなどの限界を持つが、ある一つの観光地(または市町村)に限れば、経年的な大小(すなわち変動)を比較することは可能である。

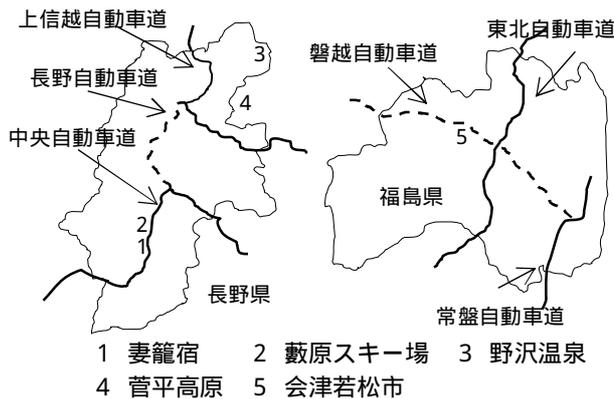


図-1 観光地と高速道路の位置

2. 影響の5分類

影響タイプは5種類に分けられる(図-2)。大都市圏Aから観光地Bまで路線が開通すると、Aからの新規客がBに「流入」するとともに、B周辺から発生する観光客がA方面に「流出」する。路線がC

まで延長されると、来客の一部が素通りするためBには「通過」現象が起きる。一方、それまで無名であったDは、「新興」観光地として急浮上することがある。また、Eにおいては、来客の一部が行き先を「転向」するため、客数が減る可能性がある。

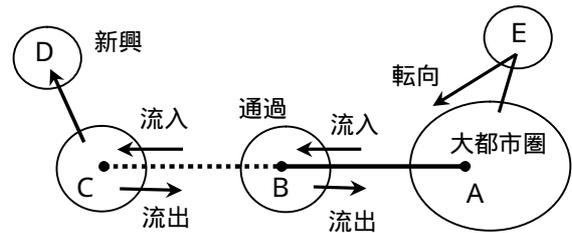


図-2 影響タイプの5分類

3. 「流入」「通過」作用の例

「妻籠宿」(長野県)の客数変動を図-3に見ると、中央自動車道の全線開通(1982年11月)を境に、日帰り客は急増に、宿泊客は急減に転じている。日帰り客と宿泊客とでは影響の現れ方が異なっている。開通による時間短縮で行動圏が広がった結果、遠方からの日帰り客は増え始めたが(流入作用)、同時に反面、観光客が遠方に宿泊地を選ぶようになり、宿泊客のほうは減り始めた(通過作用)。しかし、流入で急増していた日帰り客も、長野自動車道の全線開通(1993年3月)で停滞に転じた。行動圏がさらに広がり、日帰り客もまた通過作用を受けた。妻籠宿の来客数は高速道路開通の影響を大きく受け、宿泊面で見ると“素通り観光地”になっている。

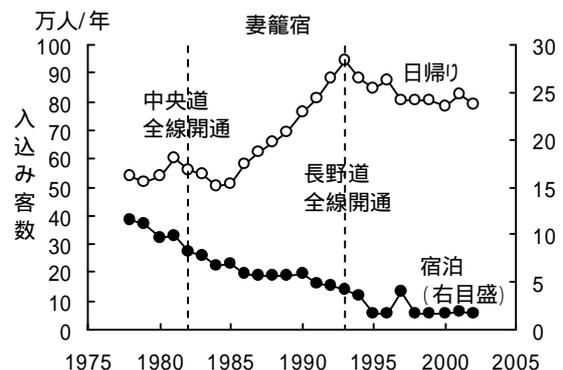


図-3 妻籠宿の入込み客数

4. 新興作用の例

妻籠宿の北に位置する「藪原スキー場」の場合を図 - 4 に示した。日帰り客・宿泊客ともに中央自動車道の開通で増加に転じており、特に日帰り客は急騰を見せた。ここでは宿泊客に通過作用は現れていない。近接している観光地であっても影響の現れ方は異なる。無名に近かった藪原スキー場は、高速道路の開通でアクセス性と知名度が一挙に高まり、新しい観光地として急浮上した（新興作用）と言える。ただし、その藪原スキー場もまた、長野自動車道の開通時には通過作用を受けている。

5. 流出作用の例

磐越自動車道は磐梯熱海ICが1990年10月に開通した後、1997年10月に全線開通している。その磐越道に沿う「会津若松市（福島県）」の場合を見ると、最初のIC開通で県外客は増えた（流入作用）ものの、県内客は減り始めた（図 - 5）。県内から来ていた来客層が、高速道路の開通を機に眼を県外に向け、県外の観光地に流出したと思われる。

6. 転向作用の例

「野沢温泉」「菅平高原」（長野県）を図 - 6 ~ 7 に示した。上昇中の来客数は、山形新幹線の開業（1992年7月）を境にして両者とも下降に転じた。主に関東圏からの客が行き先を東北方面に転向したためであると思われる。この下降は長野新幹線の開業（1997年10月）で止まると期待されたが、実際にはむしろ下降は強まった。秋田新幹線が同時期に開業（同年3月）し、長野新幹線の作用が相殺されたためだと思われる。高速交通路の開通は遠方の観光地間に広域的競合をもたらすことが分かる。

7. まとめ

「流入」「流出」「通過」「新興」「転向」という影響の5分類は、1970年代から現在まで妥当性を持つと思われる。高速交通路の開通は観光地に対して、流入・新興というプラスの影響だけではなく、流出・通過・転向というマイナスの影響も及ぼす。特に転向作用は予想外の遠方の観光地に現れることを意識しておく必要がある。

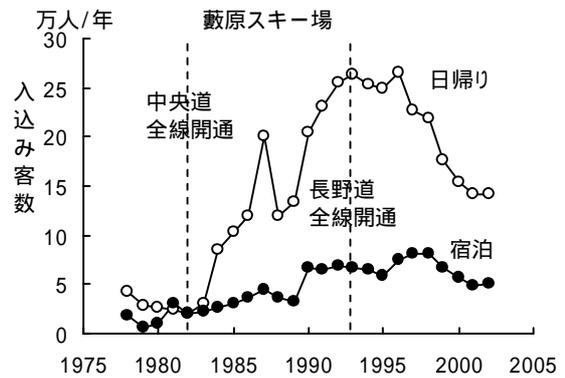


図 - 4 藪原スキー場の入込み客数

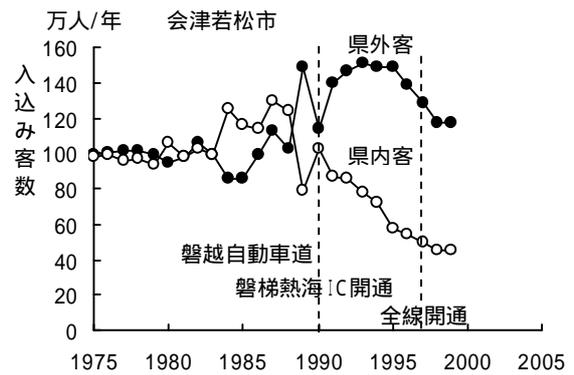


図 - 5 会津若松市の入込み客数

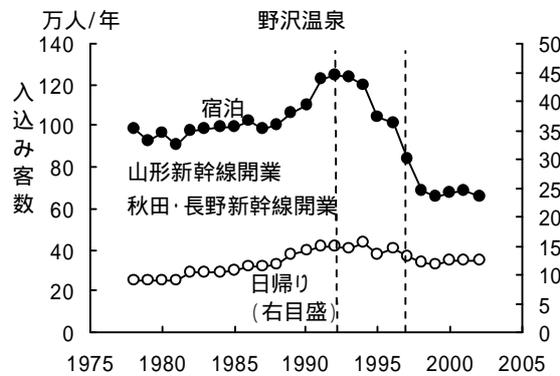


図 - 6 野沢温泉の入込み客数

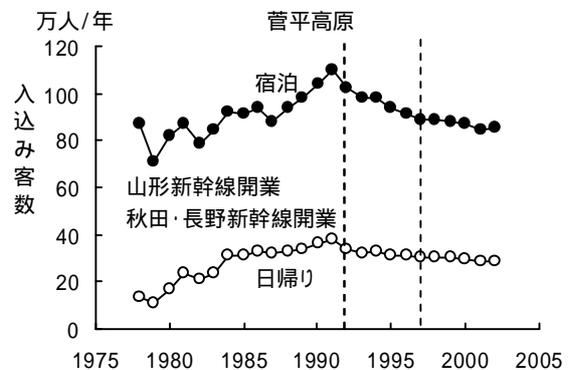


図 - 7 菅平高原の入込み客数

1) 渡辺千賀恵・田中聖人・矢野雄大「新路線の開通・延長が入込み観光客数に及ぼした影響とその分類」、九州東海大学工学部紀要、第33号、2007年3月（掲載予定）。